

二宮町における取組

【神奈川県No.4】

1. 市町村の概要

- 人口：27988人（平成30年1月1日現在）
- [小学校] 学校数：3校，児童数1269人 [中学校] 学校数：2校，生徒数647人
(学校数・児童生徒数は平成30年1月1日現在)

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・中学校に進学してからも継続して支援が必要と思われる児童や、中学校に進学してから不登校になる生徒等，様々な事情を抱えた児童生徒やその家庭が様々な事情を抱え多様化するなどの状況を受け入れる新たな体制づくりが必要であるため。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・いわゆる「中1ギャップ」の解消，外国語活動の教科化を見据えた小・中連携による英語教育の推進，9年間を見通した系統性のあるカリキュラム作成による児童・生徒の学力や学習意欲の向上，小学校高学年における学習内容の高度化への対応等が主な目的である。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫カリキュラムづくりと相互乗り入れ指導について

【小中一貫カリキュラムづくり】

町内の小・中学校全教員が10教科等に分けたワーキンググループのいずれかに所属し，教育課程の編成について専門的な研究・協議を行い，9年間を見通した小中一貫カリキュラムの作成を目指している。

各教科等のワーキンググループは，それぞれ小・中学校教員10名前後で構成されている。各ワーキンググループには代表者を置き，代表者会で各教科等の進捗状況等の確認をし，取組みを進めている。まず，小・中の先生先生方が次のような学習内容や指導方法について，お互いに「知る」ことから取り組んだ。

- ・先進地区がどのような研究を進めたか
- ・小・中学校が授業について課題と感じていることは何か
- ・学習指導要領には何が書かれているか
- ・どのような授業を行っているか等

これにより，小・中学校の教員がお互いの課題等を共有し，カリキュラム作りについての知識が蓄えられただけでなく，9年間を見通した指導を考える機会となった。

また，ワーキンググループの組織を活用し，「小学校・中学校学習指導要領解説小中つながり抜粋資料」の作成を行った。作成した小中つながり抜粋資料の内容は各ワーキンググループ内で共有され，自身の校種だけにとどまらず，異校種の学習指導要領について知るきっかけとなった。

今後お互いの授業を参観し合い，互いの指導方法を参考にしていくための土台となる，先生同士の間関係の構築につながったことは，大きな成果であった。

【相互乗り入れ指導】

外国語活動・外国語科を「重点化を図る教科等」として設定し，中学校英語科教員の一人を「小中一貫教育英語科指導研究員」とした。「小中一貫教育英語科指導研究員」は外国語活動・外国語のワーキンググループに所属するだけでなく，小学校教員を対象に外国語活動に関わる研修会を開催することや小学校への乗り入れ指導を行った。また，上記のワーキンググループのスーパーバイザーとして，各教科等の取組みにも関わった。

これにより小学校の外国語活動・外国語科の実施に向けて，今後の方向性を確認し，学級担任の意識を変える良い機会になった。さらに，小学校教員の乗り入れ指導は，中学校の指導法等について理解させ，小学校での指導に生かすことのできる良い機会になった。

小学校・中学校学習指導要領解説 小中つながり抜粋資料とは

異校種等のつながりを確認し，9年間を見通した指導を意識できるようにするために，小学校の学習指導要領解説からは中学校というキーワード，中学校の学習指導要領解説からは小学校というキーワードが書かれた文章を抜粋したもの。

4. 今後の取組

- 小中一貫カリキュラムの完成を目指して
 - ・重点化を図る教科等に据えた外国語活動・外国語グループを中心に異校種間の交流を軸に，さらなる相互理解を深める。また，他のグループに先駆けてカリキュラムの完成を目指す。